

# **Listening Lessons through 15 Inspirational Movies**

現代映画のセリフで鍛えるリスニングスキル

JRUMI SHOTEN

## Listening Lessons through 15 Inspirational Movies

Copyright©2020 by Yuto Koizumi  
and OTOWASHOBO TSURUMISHOTEN  
All rights reserved.

### 自習用音声について

本書自習用音声は以下より無料でダウンロードできます。予習、復習にご利用ください。

(2020年4月1日開始予定)

<http://www.otowatsurumi.com/3890>



URLはブラウザのアドレスバーに直接入力して下さい。  
パソコンでのご利用をお勧めします。圧縮ファイル(zip)ですのでスマートフォンでの場合は事前に解凍アプリをご用意下さい。

## はしがき

英語のリスニングを訓練するなら、心のどこかにひっかかる映画の台詞で学んでみよう。これがこの教科書のメインコンセプトです。この教科書には、15本の映画作品から台詞の一部をとりあげています。作品選択の基準は、私たちが生きているこの現実の世界について、より深く思考させてくれ、明日を生き抜く手がかりとなる物語かどうかということです。いきなり何を大げさな、と思われるかもしれませんが、映画は、たった2時間ほどの時間をかけて、私たちの人生を寓話として語り直しているメディアであると考えてみればどうでしょうか。さらにその2時間の中の、物語上重要だと思われる、わずか30秒～1分程度の場面を選び、しかもリスニングと音読の練習に特化したのがこの教科書です。

本書では、特に英語が発話される際のクセ（脱落、連結、変化するt音）に焦点を当てて練習問題化しています。音声はすべて吹き込み直したのですが、これらの練習問題をこなしていくことで、英語のナチュラルな音に少しずつ慣れてゆくことができるでしょう。

しかし本書ではそれだけではなく、このようなリアルな英語発話のクセを「音読」することで、またそのようなクセを含んだ「台詞」を「音読」することで、リスニング力を増強する狙いがあります。人生について考えさせる映画の、しかも心のどこかにひっかかる台詞でリスニング力を強化するというユニークな組み合わせを、ぜひ楽しんでいただければ幸いです。

また、この教科書を通じて気になる映画を見つけたなら、実際の映画を観てみてください。その際、本書で学習した箇所については、字幕を読まなくても何を言っているか理解できる、そして台詞から何か大切なことを思考できるという、そのような実感を少しでも得てもらえれば、編著者としてこれ以上の喜びはありません。

本書のアイデアは、映画を使って筆者が実践してきた英語クラスの内容が元になっていますので、興味を絶やさず受講してくれている全ての学生に感謝しています。

最後になりますが、本書の執筆にあたり協力していただいたお二人に御礼申し上げます。まず、例文作成時の作業を手伝っていただいた、東京工業大学社会・人間科学系博士後期課程所属の今野和彦さんに感謝申し上げます。

そして、本書の英文のチェックをして下さった早稲田大学名誉教授のアソソニー・マーティン先生に深く感謝申し上げます。台詞を文字化した後の校閲から、例文の作成に至るまで、原稿に丁寧に目通して頂きました。各ユニットの〈1：リスニングのポイント〉における例文の汎用性と意味の奥深さは、マーティン先生のお仕事に依るところが大きいです。

編著者

# 本書の使い方

(各 Unit の構成について)

## 各 Unit タイトルページ：

その Unit で扱う映画に関する情報——監督、主な配役、テーマ、あらすじ——を提示しています。配役の内、本書で取り上げた台詞に該当する人物には★を付けました。

### ① リスニングのポイント (自習用ダウンロード音声収録)

このセクションでは、独自に作成した例文を使用しながら、その Unit で主に扱うリスニングのポイントを実践的に学びます。下線が引かれた箇所特に注目し、音声を聞きながら忠実に発話(音読)してみましょう。本書において、「音読」という訓練の重要性は強調してもしすぎることはありません。全てのセクションにおいて、「音読」を徹底しましょう。

特定の箇所に下線を引いたのは、リスニングに困難が生じがちな、英語の発話におけるクセである「脱落」、「連結」、あるいは「変化する t 音」に絞って練習できるようにするためです。発話できない音は、聴き取ることは難しいのですが、逆に言えば、発話することにさえ慣れていれば、聴き取りは容易になります。音読を繰り返してこれら英語の発話におけるクセに慣れることにより、リスニングでも、よりはっきりと音を把握できるようになります。

①-③の指示文にしたがって音読の練習を繰り返し行ってください。

なお参考までに、ここではあえて、ポイントとなる発音をカタカナ表記で提示しています。以下、テキストの例を挙げて説明します。

[2 頁]

#### 《脱落する子音》

b) Who can say what you'll know next year?

(ワユル)

下線の部分 what you'll (what you will) は自然な英語の発音では「ワットユール」ではなく「ワユル」に近い音で聞こえます。発音のポイントは、what の “t” が脱落する (=完全に、もしくはほとんど発話されない) という点です。特にこの場合、what はもはや「ワ」としか発話されていませんので、「ット」の部分は除いています。他の例では「ワット」と表記する場合がありますが、この小さくなった「ト」はほとんど発話しなくて良いというサインです。

### 《単語同士の連結》

c) Some facts are too difficult for people to accept and you know it.

(アンジューノウィット)

下線の部分 and you know it は自然な英語の発音では「アンド ユー ノウ イット」ではなく、「アンジューノウィット」に近い音で聞こえます。これは、and you における [...d] と [y...] がつながり (= 連結)、「ジュー」と発話されるためです。know it も同様で、[...]w と [i...] がつながって、「ウィ」と発話されます (t は脱落)。

[8頁]

### 《変化する t 音》

f) You have to do your job; it's how it is.

(ハウイディズ)

下線部 how it is は自然な英語の発音では「ハウ イット イズ」ではなく、(特にアメリカ英語では)「ハウイディズ」に近い音で聞こえます。これは前後を母音にはさまれた “t” (i[t] + is) が “r” もしくは “d” の音に変化して発話されるためです ([...t] と [i...] の連結も発生)。

以上のようにテキストの具体例で説明しましたが、もちろん、カタカナでは外国語の音声を再現することには無理がありますし、そもそも話者個人によって発音にもバラエティーがあるのは間違いありませんが、手早く音声的なクセを身につけてもらうには有効です。

## ② 実際の台詞を聴いて空欄箇所を書き取ってみましょう (自習用ダウンロード音声収録)

ここでは、実際の台詞どおりに吹き込みした音声を聴き、穴埋め書き取り作業によってリスニングのスキルを確かめます。空欄になっている多くの部分が ① で学んだ事柄と共通しますので、① の例文の音読に習熟した後で ② に進んでもらえれば、高まったリスニング力を実感することができるでしょう。また、実際の台詞をリスニングするという意味で、① の応用問題と捉えてもらってもいいでしょう。

音声を何度も繰り返し聴いて書き取ってみましょう。「聴いて⇒書き取る」作業がリスニング力の向上には大切です。

もし余裕があれば、台詞が何を伝えているのかを読解するのも有効です。「場面の背景」も参考しつつ、なぜこのような台詞が発せられているのかについて推測してみましょう。次の ③ のための予習にもなります。

### 3 リスニング力を高めるための音読トレーニング（自習用ダウンロード音声収録）

ここでは、台詞の意味も理解しながら「音読」に集中します。ここではチャンク（意味のかたまり）ごとにスラッシュ（/）で区切りを入れてあります。また、台詞の英語に並走する形で、日本語訳を載せています。訳文はチャンクごとに、英語の語順通りに理解していけるように記述しています。英語を音読しながら、日本語訳に沿って内容を理解しているかどうかを確認してください。できれば、リスニングに困難が生じがちな「脱落」、「連結」、「変化するt音」も音読で再現できるように、何回でもチャレンジしてみましょう。「何を伝えているのかを理解しながら英語を音読する」という活動を繰り返し行うことが、リスニング力の大きな向上につながります。

### 4 Dictation

ここでは、その Unit 全体の復習として、英語の書き取り問題を用意しています。特色は、いずれの文も、様々な映画の台詞であるということです。文脈が分からないため少々面食らう刺激的な文もありますが、それは、映画脚本家が知恵と感覚を投入して書き上げた（そして監督が演出し、役者が発話することで命を吹き込む）、生きた英語の台詞であるがゆえです。書き取りが完成したら、訳も参考にしながら、お気に入りの台詞はどれか考えてみましょう。何度も音読し、暗唱できるようにしておけば、言葉の「引き出し」が増えます。それらの台詞はもしかしたら、皆さんにとって生きるための知恵となるかも知れません。願わくは実際にその作品を観てもらいたいと思います。覚えた台詞がどの場面で発話されるのかを見つけることも楽しいでしょう。

#### [参考文献]

『映画英語教育論』中谷安男、八尋春海 共編著 スクリーンプレイ、2003年

『英語リスニング教材開発の理論と実践——データ収集からハンドアウトの作成と教授法まで』  
小林敏彦著、小樽商科大学出版会、2008年

『映画で学ぶ英語学』倉田誠著、くろしお出版、2011年

本書の執筆にあたっては上記の文献を参考に致しました。記して感謝致します。

## 目次

はしがき

本書の使い方 (各 Unit の構成について)

<b>Unit 1</b>	『メン・イン・ブラック』 <i>Men in Black</i> (1997) .....	1
<b>Unit 2</b>	『バットマン』 <i>Batman</i> (1989).....	7
<b>Unit 3</b>	『レナードの朝』 <i>Awakenings</i> (1990).....	13
<b>Unit 4</b>	『500 日のサマー』 <i>500 Days of Summer</i> (2009) .....	19
<b>Unit 5</b>	『007 スカイフォール』 <i>Skyfall</i> (2012).....	25
<b>Unit 6</b>	『スパイダーマン 2』 <i>Spider-Man 2</i> (2004) .....	31
<b>Unit 7</b>	『サンキュー・スモーキング』 <i>Thank You for Smoking</i> (2006) .....	37
<b>Unit 8</b>	『ジュノ』 <i>Juno</i> (2007) .....	43
<b>Unit 9</b>	『ロビン・フッド』 <i>Robinhood: Prince of Thieves</i> (1991) .....	49
<b>Unit 10</b>	『バックドラフト』 <i>Backdraft</i> (1991) .....	55
<b>Unit 11</b>	『マジック・イン・ムーンライト』 <i>Magic in the Moonlight</i> (2014) .....	61
<b>Unit 12</b>	『セッション』 <i>Whiplash</i> (2014).....	67
<b>Unit 13</b>	『アイヒマンの後継者 ミルグラム博士の恐るべき実験』 <i>Experimenter</i> (2014) .....	73
<b>Unit 14</b>	『ロスト・イン・トランスレーション』 <i>Lost in Translation</i> (2003) ...	79
<b>Unit 15</b>	『オデッセイ』 <i>The Martian</i> (2015) .....	85





# 『メン・イン・ブラック』

## *Men in Black* (1997)



『メン・イン・ブラック』  
© ソニー・ピクチャーズ

- ◆ 監督：Barry Sonnenfeld / バリー・ソネンフェルド
- ◆ 主要登場人物（俳優）：  
John Edwards/ ジョン・エドワーズ (Will Smith) ★  
K (Tommy Lee Jones) ★
- ◆ 舞台設定：1990年代アメリカ（映画が製作された時代とほぼ一致）、ニューヨーク
- ◆ テーマ：宇宙人は既に地球に来ている、しかも地球人に紛れて生活している？

### あらすじ

MIB (Men in Black、黒服の男達) ……それは宇宙人を目撃してしまった人を訪ね、遭遇の記憶を消す秘密エージェントを意味する。実はこの地球上には既に宇宙人が訪問しており、地球人・宇宙人双方にとってトラブルが生じないよう、宇宙外交はアメリカ政府内で秘密裏に徹底管理されているのだ。MIB 部署は、いわば地球外生命体とのトラブルバスターを請け負う専門機関なのである。そんな MIB が、欠員を補充するために新人のスカウトに乗り出した。ベテラン・エージェントである K が目をつけたのは、地球人のふりをした足の速い宇宙人を追い詰めた経験のあるエドワーズ刑事であった。

1 リスニングのポイント：a) から e) の下線部の音の変化を学びます

- ① 下線部の英語とカタカナ表記を見比べ、発音を把握し、音読する。
- ② 下線部の英語に注意し、英文全体を音読する。
- ③ 録音された音声に合わせて音読する。スムーズに発音できるまで繰り返す。



1 《脱落する子音》

a) Would people handle it if they saw an alien?

(ハンドリット)

b) Who can say what you'll know next year?

(ワユル)



2 《単語同士の連結》

c) Some facts are too difficult for people to accept and you know it.

(アンジューノウィット)

d) Three hundred years ago, nobody believed that flight was possible.

(ハンドレッティヤーザゴウ)

e) He heard about the alien invasion fifteen minutes ago.

(ミニッツアゴウ)

## 2 実際の台詞を聴いて空欄箇所を書き取ってみましょう。

### 《場面の背景》

MIB になるための試験を突破したエドワーズであったが、地球には宇宙人が既に飛来しており、地球との外交まで極秘裏に展開しているという事実には驚きを隠せない。宇宙人との関係について、一般人にはなぜ知らされないのか疑問に思ったエドワーズは、ベテラン MIB である K に尋ねるのであった……。



### JOHN EDWARDS:

Why the big secret? People are smart. (1. \_\_\_\_\_ ).

### K:

A person is smart. People are dumb, panicky, dangerous animals, (2. \_\_\_\_\_ ). Fifteen (3. \_\_\_\_\_ ), everybody knew the Earth was the center of the universe. Five (4. \_\_\_\_\_ ), everybody knew the Earth was flat. (5. \_\_\_\_\_ ), you knew that people were alone on this planet. Imagine (6. \_\_\_\_\_ ) tomorrow.

## 3

## リスニング力を高めるための音読トレーニング

- ①〔黙読〕日本語訳も内容理解に役立てながら、英語の語順通りに読んで理解する。  
 ②〔音読〕チャンクごとの内容を理解しながら英文を発話していく。  
 ③〔音読〕録音された音声に合わせて発話していく。②と行きつ戻りつを繰り返す。  
 ★〔発展〕テキストを見ず、音声に合わせて発話していく。②③と行きつ戻りつを繰り返す。



## JOHN EDWARDS:

Why the big secret? / People are smart<sup>1</sup>. / They can handle it<sup>2</sup>.

なぜそんなに秘密にする？ / 人間は馬鹿じゃない。 / 上手くやっていけるよ。

## K:

A person is smart. /

人は個人だと賢い。

People are dumb<sup>3</sup>, panicky<sup>4</sup>, dangerous animals, / and you know it<sup>5</sup>.

集団では馬鹿で、パニックを起こし、危険な動物と化す、 / 君も知っての通りだ。

Fifteen hundred years ago, /

1500年前は、 /

everybody knew / the Earth was the center of the universe<sup>6</sup>.

皆が認識していた / 地球は全宇宙の中心にあるのだと。

Five hundred years ago, / everybody knew / the Earth was flat<sup>7</sup>.

500年前は、 / 皆が認識していた / 地球は平らなのだ。

## NOTES

1 **smart** 「賢い」

2 **it** 宇宙人が既に地球を訪問しており、秘密裏の外交が発展してきているということ。

3 **dumb** 「愚かな」

4 **panicky** 「パニックに陥りやすい」

5 **it** “A person is smart. People are **dumb**, **panicky**, dangerous animals” を指す。

6 **universe** 「世界、宇宙」ここでのKの台詞は、これまでに人間が考えてきた世界のありようを端的かつ順を追って説明している。例えば“the Earth was the center of the universe”とは、天動説を指す。地動説が認められるまでは、現在から見ると明らかに誤っている天動説が一般的であった。現在を生きる我々もまた、かつての天動説を信じていたような人々とそう変わらない可能性があるのだ、ということ。

7 **flat** 「平らな」

**K:**

And fifteen minutes ago, / you knew /

15分前まで、 / 君は認識していた /

that people were alone / on this planet<sup>8</sup>.

人間しかいないと / この惑星には。

Imagine<sup>9</sup> / what you'll know<sup>10</sup> tomorrow.

想像してみる / 明日にお前がどんなことを知るかを。

---

8 **planet** 「惑星」

9 **imagine** 「想像する」

10 **what you'll know** 「お前が知るであろうこと」 (what SV)

## 4 Dictation

(1) Believe it or not, I ( ).

「信じようが信じまいが、私はこれをなんとかできる」

『宇宙戦争』 *War of the Worlds* (2005)

(2) Can anyone guess what this building was used ( )?

「この建物が 100 年前に何に使われていたか誰か分かりますか？」

『シックス・センス』 *The Sixth Sense* (1999)

(3) You just missed him. He left ( ).

「彼はさっきまでここにいたわよ。15 分まえにどこかに行ったけど」

『ターミネーター2』 *Terminator 2: Judgment Day* (1991)

(4) There's something terribly wrong here in Derry, ( )!

「ここデリーでは何か恐ろしく間違ったことが起こっている、君も知っているくせに！」

『イット』 *IT* (1990)

(5) ( ) more than soup if you are to survive in my kitchen, boy.

「しかし君はスープ作り以上のことを知らなくちゃいけない、もし私のキッチンで生き残りたいならば」

『レミーの美味しいレストラン』 *Ratatouille* (2007)